



いしはし・かつひこ
1944年生まれ。神戸大学
名誉教授。東京大学理学部
地球物理学科卒業。理学博
士。専門は地震学。歴史地
震学。原子力安全委員会専
門委員、国会東京電力福島
原子力発電所事故調査委員
会委員などを歴任。
著書に「大地動乱の時」代
——地震学者は警告する
(岩波新書)、「阪神・淡路
大震災の教訓」(岩波ブ
ックレット)、「原発震災——
警鐘の軌跡」(七つ森書館)。
「南海トラフ巨大地震——
歴史・科学・社会」(岩波
書店)など。

川——静岡構造線断層帯が連動して
路線を破断するかもしれません。
また、地震が起これば全列車が
緊急停止して全乗客が避難するこ
とになります。トンネルの随所
で大混乱するおそれがあります。
最悪の場合は救出も復旧も困難
で、多数の死者・行方不明者とも
に震災遺構になりかねません。
——国も企業も「国民の命より経
済」「二度決まったものは止めら
れない」という姿勢が顕著です。
リニアに関しては、そもそもJ
R東海や国土交通省が乗客の安全
を真剣に考えなかったのが致命的
な手落ちです。国土交通省の審議
会には地震の専門家がおらず、関
係者に想像力が欠落していたのだ
と思います。都合の悪いことは考

えない、起きて困ることは起きな
いことにするとといった、敗戦のと
きと同じ指導者の習性もあるみた
いです。新型コロナ対策でも、東
京オリンピック・パラリンピック
でもそれが見られますが。
——リニアの危険性を報じないメ
ディアにも問題があるようです。
リニア中央新幹線計画は早くか
ら、需要予測や技術の信頼性に疑
問がありました。計画が始まって
からは、トンネル工事による水溜
れや残土の問題、沿線住民の生活
破壊なども深刻です。JR東海の
不誠実さに堪りかねた住民が3件
の訴訟を起こしています。しかし、
大手メディアはそのようなネガテ
ィブな情報をほとんど報じてきま
せんでした。人々の夢に水を差す

のをはばかるからともいわれます
が、原発を「夢のエネルギー」と
宣伝して推進に加担し、福島事故
を起こしてしまった過ちを繰り返
してはなりません。
——新型コロナ終息後もリニア新
幹線は必要なのでしょうか。
コロナ禍から学んだことは、今
後私たちは、経済成長至上主義に
よる「集中・大規模・効率・高速」
の論理ではなく、「分散・小規模・
ゆとり・ゆっくり」を大切にすべ
きということだと思います。リニ
ア新幹線は東京・大阪間を1時間
で結んで、人口7000万人の巨
大都市圏を生むと謳います
が、それは時代錯誤ではないでし
ょうか。実際、ライフスタイルの
変化や人口減少によってリニアの
需要が減る可能性があります。し
かも、脱炭素化社会を目指すべき
なのに、在来型新幹線の3〜5倍
の電力を消費します。
ポストコロナの日本は、南海ト
ラフや首都直下の地震災害に対し
て社会全体が強靱にならなければ

念を提起して警告していました。
それが福島で起きてしまったので
ショックでした。そこへリニアが
現れたので、原発と同じことにな
るのではないかと危惧したのです。
JR東海は「リニアは地震に強
い」と主張していますが、そのル
ートは地球上で最も地震危険度が
高い地帯です。路線の約86%がト
ンネルで、活断層を何本も横切り
ます。それらが大地震を起せば、
トンネルが何層か食い違つて、列
車が巻き込まれれば大惨事になる
し、そうでなくても路線は完全に
破壊されます。トンネルであるた
めに、乗客の救出も路線の復旧も
きわめて困難でしょう。
——リニア中央新幹線は東海道新
幹線が南海トラフ地震で被災した
際に必要といわれます。
南海トラフ巨大地震が起これば
リニア新幹線も被害を免れないで
しょう。甲府盆地や名古屋付近の
長時間の激しい揺れ、山岳トンネ
ルの破砕帯の損壊・出水や坑口の
山崩れなどが懸念材料です。糸魚

ZAITEN 著者インタビュー

Interview

無謀な計画に突っ走る 想像力なき「国策民営」の超危険

石橋克彦

『リニア新幹線と南海トラフ巨大地震』

「超広域大震災」にどう備えるか

集英社新書 / 840円+税

リニア新幹線と 南海トラフ巨大地震

「超広域大震災」にどう備えるか

石橋克彦
Ishihashi Katsuhiko

時速500キロの超特急は
「活断層密集地帯」を疾走する。

本当に、 大丈夫？

地震学の
知見に基づく
リアルな警告!

集英社新書

本書を上梓したきっかけ、動
機を教えてください。
リニア中央新幹線の大問題は地
震に対する危険性ですが、それを
述べた本は1冊もありません。私
は10年前から心配していました
が、短い文章で指摘するだけでし
た。ところが去年、コロナ後の日
本にリニアは不要ではないかと強
く感じて、雑誌や新聞に「リニア
は地震に弱い」と「ポストコ
ロナではリニアは時代錯誤」とい
うことを書きました。それを詳し
く説明して多くの方々に読んでい
ただこうとしたのが本書です。
品川・名古屋間の2027年開
業を目指すリニア新幹線は民間の
JR東海の路線です。11年の東日
本大震災と福島原発事故の2ヵ月
後に、国土交通省の審議会で計画
が認められました。しかし、地震
に対する安全性はまったく検討さ
れなかった。実は私は1997年
以来、原発が地震・津波で事故を
起こし、放射能災害と通常の震災
が複合する「原発震災」という概

念を提起して警告していました。
それが福島で起きてしまったので
ショックでした。そこへリニアが
現れたので、原発と同じことにな
るのではないかと危惧したのです。
JR東海は「リニアは地震に強
い」と主張していますが、そのル
ートは地球上で最も地震危険度が
高い地帯です。路線の約86%がト
ンネルで、活断層を何本も横切り
ます。それらが大地震を起せば、
トンネルが何層か食い違つて、列
車が巻き込まれれば大惨事になる
し、そうでなくても路線は完全に
破壊されます。トンネルであるた
めに、乗客の救出も路線の復旧も
きわめて困難でしょう。
——リニア中央新幹線は東海道新
幹線が南海トラフ地震で被災した
際に必要といわれます。
南海トラフ巨大地震が起これば
リニア新幹線も被害を免れないで
しょう。甲府盆地や名古屋付近の
長時間の激しい揺れ、山岳トンネ
ルの破砕帯の損壊・出水や坑口の
山崩れなどが懸念材料です。糸魚